

◆面会交流をする際の注意点

子どもと離れて暮らす親	子どもと一緒に暮らす親
<ul style="list-style-type: none"> <li>日時や場所などは子ども優先</li> <li>事前に決めている約束事は守る</li> <li>元配偶者の悪口を言ったり、様子をしつつこく尋ねたりしない</li> <li>勝手に高価なプレゼントなどをしない</li> <li>勝手な約束を子どもとしない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>元配偶者に子どもの近況などを事前に伝える</li> <li>過去の夫婦の争いや悪口を子どもに言わない</li> <li>子どもが会いたがらない時は理由を聞き、一方的に面会交流をやめず元配偶者と話し合う</li> <li>笑顔で送り出し、温かく迎える</li> </ul>

(家庭裁判所で配布されている「手引をもとに作成」)

# 子どもも第一の姿勢で

日本では面会交流の取り決めにしないまま親子が離れてしまうケースが多い。どうすれば子どものための面会交流になるか、改めて考えて行動することが大切だ。

弁護士法人ALG&アソシエーツで離婚問題を担当する弁護士岡本珠亀(たまき)さんは「特別なことをするより、普段の生活を感じてもらうことが大切」と話す。

まず、面会交流をする日時や場所などは、子どもの体調やスケジュールに合わせる。「習い事を休ませるなど負担をかけてはいけない」と岡本さん。あくまで「養育の一環で、子どもを第一に考える姿勢が

## 生活 調べ隊

大切だ。

子どもの前で元の配偶者の悪口を言うてはならない。悪口の意図はなくても、子どもが悪く受け止めることがある。言葉遣いに注意する。元の配偶者の了解なしに高価なプレゼントや小遣いを与えることも好ましくない。プレゼントなどは、事前に元の配偶者と話し合うようにする。

「普段会えない子どもとの時間を特別に感じることは理解できませんが、自分のためではなく、子どものために面会交流することを忘れないでください」と岡本さん。子どもを会わせる側も配慮すべき点がある。

面会交流の前に、子どもの健康状態や学校行事での出来事など、近況を伝えておくことよい。会話が弾み、円滑な交流につながる。

子どもは親の気持ちや表情に敏感なもの。面会交流に出かける時や戻ってきた時は、気を使わせないよう、笑顔で温かく接したい。

面会交流を巡っては、離婚に至った関係性が持ち込まれるため、家庭内暴力(DV)の再燃や、双方が子どもを奪い合おうとするトラブルの発生も懸念されており、実際に事件も起きている。

このため、面会交流に詳しい大正大教授の青木聡さんは「まずは自分だけでなく、元の配偶者も親であると尊重しあえる新たな関係を築くことが大切だ」と指摘。「トラブルが心配であれば、面会交流の前に、家庭裁判所の調停を経るなど、第三者の支援や

アドバイスを受けてほしい」と呼びかける。

### 自分中心に考えず

\*取材を終えて 取材中、様々な立場や意見の人から話を聞いたが、共通していたのは「子どもにとって何が大切かを考えることが第一」という言葉だった。面会を求めたり、親権について議論したりする中で、自分中心に考えてしまいがちなのだという。

面会交流の実現まで1年以上の調整が必要なケースも普通と聞いた。個々の事情は様々で一筋縄ではいかないと思うが、誰のための面会交流かを考えれば、解決策を探ることは可能なのではないか。